

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号：2019C-5

課題名：専門病院に勤務する看護師の職務不満とバーンアウトとの関連

主任研究者 (所属施設) 国立成育医療研究センター
(所属・職名 氏名) 看護部 専門看護室・看護師長 横尾由希子

(研究成果の要約)

専門病院に勤務する看護師の職務不満とバーンアウトとの関連を明らかにすることを目的とし、当院に勤務する看護師長以上の職位を除く全看護職員 637 名に 2019 年 5 月に質問紙調査を行った。

回収数は 266 名 (回収率 41.8%) であり、174 名 (27.3%) を分析対象とした。重回帰分析 (ステップワイズ法) の結果、「就職前に思っていたよりも仕事がきつい」「小児科または周産期看護のやりがい」「繰り返し説明しても訴え続ける患者にうんざりすると感じる」「患者家族との関係」「健康状態」「子どもの有無」「仕事量」「相手の意見や気持ちを受け止められる」「仕事と生活の両立」が、バーンアウトと関連があった。

今後、専門病院に勤務する看護師のバーンアウトを予防するために、それぞれの要因を考慮し、バーンアウト予防のための具体的な支援が望まれる。

1. 研究目的

バーンアウトの研究は積み重ねられ、看護師がバーンアウトしていると患者の満足度が下がり、看護師自身の健康にも影響が出るといわれている。バーンアウトが影響する要因の一つに職務不満があり、職務不満とバーンアウトに関連があると報告されている。看護師の職務不満の詳細を取り上げ、具体的にどのような不満がバーンアウトにつながるか明らかになれば、バーンアウトの予防に寄与できると考えた。そのため、専門病院に勤務する看護師の職務満足とバーンアウトとの関連を具体的に明らかにすることを研究の目的とした。

2. 研究組織

研究者 所属施設
横尾 由希子：国立成育医療研究センター

3. 研究成果

当院に勤務する看護師長以上の職位を除く 637 名に全看護職員に 2019 年 5 月に

質問紙を配布し、回収数は 266 名 (回収率 41.8%) であった。有効回答は日本語版 MBI-HSS に欠損や重複のない者とした。またバーンアウト総合得点平均値に有意差があった助産師と、人数が少なかった男性看護師は対象から除外した。女性看護師 174 名の重回帰分析 (ステップワイズ法) の結果、自由度調整済み決定係数は 0.64 で 64% の説明率であった。「就職前に思っていたよりも仕事がきつい」「小児科または周産期看護のやりがい」「繰り返し説明しても訴え続ける患者にうんざりすると感じる」「患者家族との関係」「健康状態」「子どもの有無」「仕事量」「相手の意見や気持ちを受け止められる」「仕事と生活の両立」が、バーンアウトと関連があった。

4. 研究内容の倫理面への配慮

当院の倫理審査委員会の承認を得て研究を実施した。(承認番号 2208 2019 年 5 月)

18 日) 質問紙調査にあたっては、質問紙と一緒に同封した依頼文に調査内容の説明し、質問紙の冒頭に研究参加への同意を確認するチェック欄を設け、質問紙への記入返却をもって同意と見做す形をとした。質問紙は無記名式であり、撤回は不可能である。質問紙は無記名式であり個人情報は収

集していないが、得られた情報の漏洩防止に努め、質問紙は施錠されたキャビネットにおいて管理した。また、研究の成果を学会・学術誌などで発表する場合も、記載された内容から本研究協力者の個人情報が特定できないように十分に配慮する。